真鶴町立ひなづる幼稚園

研究テーマ：「伝え合い・学び合いを通して育む、確かな学びと豊かな心」
～心と体を弾ませ、主体的に取り組める環境づくり～

１、実践の目的

幼児は人・物・空間とのかかわりの中で遊びを想像しながら学び成長する。教師は幼児の発達を見通し、教材等の特性や特質を見極めて、教材の選択や配置などを考え、環境の構成をする必要がある。

今までも、子どもの興味を引き出し、興味に沿った環境づくりに努めてきたが、１つ１つの活動がぶつ切れになっていたり、教師が指導していく遊びの展開が多かったりして１つの遊びの継続の難しさを感じていた。

そこで、子どもの思いや主体性を大事に考えた保育の探求や展開をしていこうと考え、子ども達で遊びを展開、継続、発展できるような環境づくりについて学びを深めていくこととした。

２、実践の内容

（１）研究の内容

〇子どもの思いや主体性を大切にしていく保育の探求・展開。
〇子ども達で作り出した遊びが継続し、発展していける環境づくり。
〇年３回の園内研のための保育ではなく、日常の保育の充実につなげる。
〇幼・小・中の１２年間の子どもの育ちの連続性を大切にした土台づくり。
〇活用しやすい指導案や週日案について検討する。
〇園内研究では他のクラス担任が参観したり、年間を通して幼・小・中の教師同士がお互いの授業や保育を参観したりして、それぞれの子ども観や教育観を共有する。

（２）保育参観・研究協議の様子

年間３回の保育参観等を行った。

① ６月 15 日(水)　年長組
② ７月７日(木)　年中組
③ 11 月 16 日(水)　年少組

保育参観では、園長を含めた全教員で保育の様子を参観し、それぞれの幼児の動きを観察し、その裏にある思いについて考察した。それぞれの見取りは協議において交流され、それぞれの幼児の理解の深まりにつながり、その様な動きを生み出した教師の環境整備等の意図に関しても話合いが及んだ。小・中学校の教員も保育参観に参加し、その見取りや感想は付箋に残され、協議の際に生かされている。③の保育参観には幼稚園経験の豊富な外部講師にも参加していただき、保育の様子について協議を行った。

（３）園内研修会の様子

年間 10 回の KYT 等研修を行った。
全職員が危険を察知し、大きな事故に繋がらないための力を身に付けることを目的に行っている。「ヒヤリ・ハット事例」や「体罰事例」をもとに話し合ったり、園の遊具等から危険について考えたりした。研修は３年間継続されており、意見交換も盛んになっている。風通しの良い職場環境の構築にも良い影響を与えている。

３、実践の成果

・月１回の園内研究日を設け、保育や環境構成についての話し合いや、日案・週案等の計画の見直し改善を行ったことにより、

環境設定や安全配慮も明確になり、保育の振り返りがしやすくなった。支援員とも保育内容や支援の仕方を共通理解できるよう、指導案を掲示したり、保育の中で気づいたところをお互い記録したりしていくことでより環境づくりや幼児の見取りについての理解が深まった。

- 園内研の中で外部講師に保育の様子を見ていただき、保育の在り方や指導案の書き方など具体的なアドバイスをいただき多くの学びがあった。夏休みにも、リモートで保育に関する課題解決のための質疑応答の機会も設けた。また、年間を通してオンライン研修により、コロナ禍でもたくさんの研修に参加でき、多くを学ぶことができた。
- 全職員によるＫＹＴ等研修では、今までの危機管理研修の他にも、幼児教育に関する内容を取り入れ、職員間での意見の交換や話し合いの場を設けることができ、保育の方向性を共有できた。
- 合同研究部会では、それぞれの部会で小中の先生方と情報の交換を行うことができた。ICT 部会では小学１年生の授業での iPad の具体的な使い方を聞くことができたり、幼稚園での体験研修もできたりして良かった。
- 小中学校の参観の機会があったり、小中の先生方も園内研究に参観に来たりしてくださった。
- 近年本園がしてきた教師主導保育から本来あるべき子ども主体の保育の展開をめざすことで、子ども達が生き生き活動する姿や自発的に物事に取り組める姿に変わってきた。その中で対話も生まれ遊びが深まり、年長児は子ども達同士で遊びが発展させられるようになってきた。サークルタイムを導入することで、自分の気持ちを表現しようとする姿も見られるようになった。教師自身も見栄えを気にせず無理強いしない保育、行事に追われない保育、多様性を認め合える保育、子どもの育ちを認め良いところを伸ばす保育など今まで難しかった点を改めて意識しながらのびのびと保育することができた。それが良い環境となり、子ども達の「心と体を弾ませ、主体的に活動に取り組める」ことに繋がってきていると感じる。

４、今後の展開

（１）今後の研究の方向性

- 子どもの思いや主体性を大切にしていく保育の探求や展開は引き続き大事にし、続けて研究を深めていきたい。
- 指導案については、更に書き方を検討していく必要がある。そのためには子どもの見取りをしっかりとし、どんな支援が必要かを明確にし、ねらいに迫る手立てが分かるように努力していきたい。

（２）残された課題への対応など

- 少人数保育ということもあり、何かと教師が手厚く援助をしがちである。園が安心して過ごせる場として存在することを前提として、課題を乗り越える体験が子どもの発達にとって肯定的な意味を持つためにどのように支え関わっていったらよいかを探っていきたい。
- 幼児が身近なものに自ら関わり自発的な活動としての遊びが充実するよう環境に意図を込め、教材として用意することが大切である。また、子ども達の活動に対してどのように教師が関わるか、どう遊びを展開・継続・発展させるかを次の研究の視点としてとらえるようにしていきたい。
- 「幼児教育の重要性・遊びの大切さ・主体的な保育の在り方」などを保護者にいかに伝えていくかも検討していきたい。